AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 () 平成20年度:26.

放射線療法中の下着の工夫と皮膚自覚症状の関係の検討

押方, 智子

放射線療法中の下着の工夫と皮膚自覚症状の関係の検討

光学診療部・放射線部ナースステーション　　押方　智子

【目的】

放射線治療後の皮膚炎は悪化予防のために患者の自己管理が必要である。ここでは皮膚の保護に直接影響を与える下着に視点を置き、それらの工夫と皮膚の自覚症状との関係を調査し、示唆を得たので報告する。

【方法】

乳房温存術後で総線量 50 ～ 60Gy の放射線治療を受けた外来通院患者 58 名に無記名自記式質問紙を用いた調査した。調査項目は下着の種類と素材・密着度合いの工夫と、皮膚の自覚症状の変化の 14 項目とし、工夫と自覚症状の関係を有意差検定した。

【結果】

1．下着の工夫では、密着度合と皮膚自覚症状との間に正の相関関係がみられた。

2．下着素材・密着度合において自覚症状の「少しよくなった」「あまり変化しなかった」との間に有意差があった。

3．下着の種類においてはタンクトップを使用している人が自覚症状の変化しない、または改善すると認識している傾向にあった。

4．仕事継続者は、密着度合の工夫との間で正の相関がみられた。

5．素材の工夫と自覚症状の関係において、症状が「少しよくなった」「あまり変化しなかった」の間に有意差がみられた。

【結語】

今後オリエンテーションや日々の関わりにおいては下着指導のポイントとして、下着の密着度合、仕事の有無等個別指導が重要といえる。